

| 科目名 Course Name | | 開講年次 | 開講学期 | 曜日・時限 |
|---|---|-------------|---------------|--------------|
| 児童臨床心理学 Child Clinical Psychology | | 2年 | 後期 | 別途、時間割参照 |
| 単位数 | 授業の形態 | 授業の性格 | | 履修上の制限 |
| 2単位 | 講義 | 選択 | (保育士養成課程選択必修) | 児童フィールドのみ |
| 当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目 | | | | |
| 特に無し | | | | |
| 同時に履修しておくことが望まれる科目 | | | | |
| 保育士養成課程科目 | | | | |
| 担当者に関する情報 | | | | |
| 氏名 | 研究室の場所 | オフィスアワー | | 電話番号・メールアドレス |
| 秋山真奈美 | 講義棟3階 | 火・土・授業時間を除く | | 授業中に指示します |
| 授業の概要 | | | | |
| この科目では、保育の対象（児）のみならず、その周辺にいる人（例えば母親など）や、ひいては自分自身を理解するための心構えや技術を伝えることを目的とする。講義だけでなく、なるべく具体的な体験（セッション）を通じて、自分や相手の気持ち、そして人間関係におけるコミュニケーションのあり方について学習する。最終的に、他者の話を親身になって傾聴する態度を身につけられるよう、心がけて欲しい。 | | | | |
| 授業の目標 | | | | |
| ①他者の話を親身に傾聴できるようにする。 ②保育者として、保護者との面談をすすめるための心構えと具体的な手法とを体得できるようにする。 ③保育者として、子どもの話を聴くための姿勢と具体的な手法を体得できるようにする。 ④自己理解を深め、自分の他者への影響力を自覚できるようにする。 ⑤望ましいコミュニケーションのあり方について理解しており、相手とのやりとりの中で実行できるようにする。 ⑥初対面の人とも“ラポール”（話しやすい雰囲気、信頼感、安心感）が作れるようになる。 ⑦問題行動の背景に潜む要因について理解した上で、クライアントの心情に応じた対応をする心構えを持つ。 | | | | |
| 授業の方法 | | | | |
| 前半は相談援助の心構えなどを講義する。後半はそれらの心構えをもとに、ロールプレイングやグループワーク等の対人的なセッションを行う。 | | | | |
| 学習の成果（学習成果） | | | | |
| (1) “専門家として” 人の話を聞く態度、即ち「カウンセリング・マインド」を体得できる。 (2) 自己理解を深め、自分の他者への影響力が自覚できる。 (3) 問題行動の背景に潜む要因について理解した上で、クライアントの心情に応じた対応をすることができる。 | | | | |
| 授業のスケジュールと内容 | | | | |
| 第1回目 | オリエンテーション：児童臨床現場の実際 カウンセリングとは | | | |
| 第2回目 | カウンセリング・マインド：カウンセラーとクライアント カウンセラーに求められること | | | |
| 第3回目 | 問題行動の理解のために：適応・不適応とは 対象理解の重要性について | | | |
| 第4回目 | 問題行動の理解のために：適応機制 欲求不満耐性 | | | |
| 第5回目 | 問題行動の理解のために：描画法の実践 | | | |
| 第6回目 | 効果的なコミュニケーション：自己概念 他者との関係 情緒の安定 現実的知覚 | | | |

| | | |
|---|--|--|
| 第7回目 | 効果的なコミュニケーション：技能と課題 傾聴 アサーション 自己開示 | |
| 第8回目 | 面接の進め方：ラポール 場面の設定 | |
| 第9回目 | 面接の進め方：構造化と心得 資料の収集 記録の取り方 | |
| 第10回目 | こころを伝える技術〔セッション〕：非言語的コミュニケーション 社会的技能訓練 エンカウンター | |
| 第11回目 | こころを伝える技術〔セッション〕：言語的コミュニケーション（再述 反映 要約 沈黙） | |
| 第12回目 | こころを伝える技術〔セッション〕：言語的コミュニケーション（傾聴 対話 自己開示） | |
| 第13回目 | こころを伝える技術〔セッション〕：言語的コミュニケーション（アサーション） | |
| 第14回目 | ロールプレイングによる保護者模擬面接〔セッション〕 | |
| 第15回目 | カウンセリング関係の終結：終結の心構えとまとめ カウンセリング・マインド・チェック | |
| | | |
| 成績評価の方法と基準 | | |
| 評価の領域 | 割合 | 評価の基準 |
| 授業参加態度 | 40% | セッションへの積極的な態度、講義への質問を歓迎する。授業目標①～⑦に挙げた、コミュニケーションへの理解と技能の向上とが認められることが望ましい。 |
| レポート | 40% | 第15回目授業冒頭で総合レポート「この授業から学んだこと」を提出してもらう。自己理解や他者理解について、多角的な考察がなされることを期待している。 |
| 調査報告書 | | |
| 小テスト | | |
| 試験 | | |
| 発表内容（態度含む） | | |
| その他 | 20% | セッションの翌週に毎回（実質5回）提出してもらう小レポートの提出率を評価の対象とする。実施の目的と記述のポイントは初回オリエンテーションで解説する。 |
| 教科書と参考図書 | | |
| 教科書は特に用いない。必要に応じてプリントを配布する。参考書・資料は初回授業はじめ各回授業で随時紹介する。 | | |
| 履修上の留意点・ルール | | |
| セッションを通じて学び取ったことは、毎回必ず小レポートにして提出してもらう。セッション中に聞いた個人情報を、本人に断りなく他者にもらすことは禁じる。また、私語・居眠り・授業に無関係の行動・不参加は「授業参加態度」における減点の対象とする。 | | |